

2026 年 9 月 16 日

愛媛県議会議長
松尾 和久 様

請願者

松山市中央 2 丁目 23-1 平岡ビル 201

伊方原発をとめる会

事務局長 須藤昭男

紹介議員

熊本地震を受け、伊方原発 3 号機の運転中止を求める請願

【請願趣旨】

本年 7 月 28 日に起こった熊本地震は、震源が日奈久断層帯付近にあり、規模はマグニチュード(M)7.1 であった。今回観測された最大加速度は 2,438 ガルで、横ずれ断層に隆起と沈降を伴って大きな被害を出し、津波も起こっている。

10 年前の 2016 年 4 月 14 日、16 日に起こった熊本地震では、震源が布田川断層帯で、今回の日奈久断層帯のすぐ近くで起こり、規模はそれぞれ M 6.5、M 7.3 であって、最大加速度は、益城町で 1,580 ガル、大津町で 1,791 ガルが観測された。16 日には、大分県中部に M5.7 の地震がほぼ同時に誘発され、九州の西部から東部に至る連動の発生であった。

伊方原発の北 5～8 km を東西に走っている中央構造線は、本州から九州西部にまで至る。活断層の連続性に諸説あっても連動が危惧されることは疑いない。歴史的には、1596 年 9 月 1 日に慶長伊予地震、9 月 4 日慶長豊後地震が起こり、どちらも M7 だったと推定されており、津波も起こり、別府湾の瓜生島や久光島が、一夜にして海に沈んだと伝えられている。このように横ずれ断層に隆起と沈降を伴い大きな被害を出す活断層が伊方原発の近くを通っていることを忘れてはならない。

伊方原発 3 号機の設計施工時の基準地震動 S1 は 221 ガルであり、基礎工事と格納容器はこの基準で造られた。その後に基準地震動の見直しを重ねて、現在の 650 ガルとされているのであり、中央構造線で起こる地震が直撃すればひとたまりもない。

伊方原発 3 号機の運転は中止すべきである。原発事故がおこればどうなるか、15 年前の東京電力福島第一原発事故を思い起こしていただきたい。伊方原発 3 号機の運転は何も起こっていないうちに廃炉に舵を切るべきである。

【請願事項】

- 一、 熊本地震を受け、伊方原発 3 号機の運転を直ちに中止し、廃炉へ舵を切ること。

以上